



理事長・院長

いわき ひろよし
岩城 啓好

7月で、本院を開院して早3年の月日が経ちました。この3年間に、患者様により良い医療を提供するために、色々なことを行ってきました。

2013年7月、先ずはじめに行ったのは、外来診察室の改装でした。2つしかなかった診察室は5つとなり、同時に医師事務作業補助者（DA; Doctor Assistant）の導入を行いました。業務改善を図ることで、以前より効率的な外来診療が可能になりました。

次に、5階病棟を療養病床から急性期病床への転換と個室の導入です。これにより、急性期の手術を必要とする多くの患者様を受け入れることが可能となりました。2014年度の診療報酬改定に伴い、亜急性期病床のカテゴリーが廃止されました。この対策として2014年4月、4階病棟を地域包括ケア病棟への転換を行いました。したがって、超急性期後さらに治療を必要とする患者様方に対応できるようになったことは、現在の当院の状況からは非常に良かったのではないかと考えています。

その後、急増する患者様や手術件数に対応するために、2014年7月に2階の工事を開始しました。手術室の増室、CTやレントゲン機器、DEXA機器の導入を含む、7か月に及ぶ工事となり2015年1月より稼働しました。本工事により、レントゲンの待ち時間が大幅に短縮され、遅くまで手術することもなくなり、手術室、病棟をはじめとする医療スタッフの労働環境が大いに改善されました。もちろん医師にとってもです。

そして、2015年10月に待望のMRIが導入されました。外部の医療機関に検査を依頼しないとMRIが撮れなかったがために診断に時間がかかっていた問題点が改善されたことは、当院のコンセプトである“はやく治す病院”には必須のものでした。MRI導入後、診断までの時間が短縮されたことは患者様にとって非常に喜ばしいことです。同時に3階の改修工事が完成し、当院の過去3年間の改修・改築工事は一区切りを迎えました。

こうして振り返ってみると足早に過ぎた3年間のうちに当院も外見的にはあまり変わっていないのですが、中身は大きく変化し、より多くの患者様を治療する体制が整ってきたと自負しております。もちろん、いまだにハード面では至らない面も多々あるとはおもいますが、ソフト（内）面をより充実させ、病院を発展させていければと思っています。

7月からは大学の同級生の山下先生が麻酔科部長として着任されました。同級生から忌憚ない意見をもらいながら、少しでもよい医療と、よい職場環境を提供できるように努力していきたいと思っています。

3年が終わり、周りの医療機関様や、患者様からの評価も徐々に定まってきているように感じます。ここでさらに気を引き締めて、より良い医療を提供できる病院にどんどん変革していきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。





新しい先生が着任しました！



麻酔科

やました ともゆき
山下 智之 先生

7月1日より、中之島いわき病院に勤めることになりました麻酔科の山下智之と申します。

大阪市立大学を平成7年に卒業し、20年ほど麻酔科医をしております。

さて、皆さんは、麻酔科医に対してどのようなイメージをお持ちでしょうか？

あまり、皆さんの目に触れないところで仕事をしておりますので、今回私が、どのような仕事をしているか紹介いたします。

メインの仕事は、皆さんが手術を受けられるときにしっかり寝ていただき、痛みを取ることです。

手術の間は、急に血圧が変動したり、思わぬ出血があったりします。手術中、ずっと患者さまのそばにいて、すぐさま対応します。

また、患者さまが手術・麻酔に耐えられるかどうか、手術の前日にお部屋まで診察に伺います。その時に、麻酔の説明をしますので、麻酔について不安なこと、確認したいことがあれば、何でも質問して下さい。少しでも不安を減らし、手術を受けていただければなと思っております。手術の翌日にも診

察に伺います。麻酔を受けた後に、麻酔が原因でしんどいことがなかったか確認し、今後の麻酔の質を高めていきます。手術後の痛みについても、どのように対処したら良いか考えていこうと思います。今のところ、1人体制で麻酔をしておりますので、十分な対応をとれないこともあるかも知れません。ご不満や、ご要望がありましたらお気軽にお声をかけて下さい。

どうぞ宜しくお願い致します。

～毎日の猛暑にもひるまず咲く向日葵の花束と“良風”を皆様に～

皆さま、接遇とは何か？と問われたら、その言葉や、接遇・マナーについて理屈では分かっていても、行動にうつすことや継続していく困難さを実感したことはありませんか。

当院では、ビジネスマナー講師を招き、定期的に職員に対し接遇研修を行っております。

医療従事者としての私達は、患者様に対し最良のサービスを提供することで最大の満足を得て頂き、且つ好ましい人間関係を作ることが使命であり要求されることではないかと考えます。これは接遇の概念でもある“常に相手の立場や気持ちに配慮した、心のこもった温かい対応”と同じです。“接遇”は、皆様に満足を得て頂くための、最も適した手段であると思います。

今年6月に開催した接遇研修会ではマナーの基本である5原則を学びました。患者様のサービス向上を図るため、心に寄り添う接遇を実践するうえで押さえておくべきポイントになります。

それは、①あいさつ②みだしなみ ③表情・態度(立ち居振る舞い) ④言葉遣い ⑤気遣いの5項目です。マナー講師 南先生に指導して頂き、いろんな気づきや再発見がありました。その中の2項目について紹介したいと思います。

① あいさつは、コミュニケーションの始まりであり心と体はつながっています。

さわやかな笑顔と大きな声で「おはようございます」で始まり、「お疲れさまでした」で終わるあいさつ。又、あいさつは「仕事の入口と出口である」とも言われています。このように、一人一人が自然に、当り前にあいさつができる職場環境であつたら、病院の雰囲気も違ってくるはずだと考えます。

⑤ 気遣いですが、患者様のニーズを自ら先に察知することの必要性は、医療従事者のみではなく、人としても重要なことだと考えます。

しかし、煩雑な現場では、患者様の思いや状況に気づくのは簡単なことではありません。又、忙しくても「気づける」職員がいる一方で、さほど忙しくなくても「気づけない」職員がいることも事実です。職員による「気づき」の差は、サービスの質にも影響します。

昨今、一般社会においても「気づきの力を高める研修」が増加しているのは、「気づきがなければ気遣いはできない」と考えられているからです。患者様が、心地よく安心して療養できる環境調整を図るためにも、個々の職員が気づきの力を養い、高めることが看護ととも重要な事です。

最後に南先生よりメールが届きました。

「スタッフの皆様の意識が、少しでも初心を思い出し、気遣いなど、ホスピタリティマインドを心に留めて、日々働いて下されば幸いです。」のメッセージです。

接遇は永遠に実践・継続していくものであります。

すべては患者様のために。

看護部長 山下 静子



当院で言語リハビリがスタートしました！

当院では、この夏より、言語聴覚士による「言語リハビリ」を開始することとなりました。

脳卒中の影響で「頭では分かっているのに言葉が出ない、耳は聴こえるけど、相手の言っていることがわからない(失語症)」、「呂律が回りにくくて、何を言っているのかわからない(構音障害)」、「高次脳機能障害と診断されて、どこでリハビリをしたらいいのかわからない」。皆様のお近くに、このような方はおられますか。当院にてリハビリが可能ですので、ぜひ一度、ご相談ください。

また、これまで通り、摂食・嚥下障害のリハビリも実施しております。「飲み込みにくさがある」、「ご飯や飲み物でよくムせる」などでお悩みの方も、ご相談ください。

摂食・嚥下障害だけではなく、失語症や構音障害、高次脳機能障害のリハビリにも対応可能となりました。



嚥下障害のため、普通の食事では栄養が十分に摂れない方に対しては、適宜食事形態の調整を行います。





中之島いわき病院検査室って???



検査室って...

どんなこと
してるのかしら?

さあ...

大きく分けて、**検体検査**と**生理機能検査**を行っています。

検体検査は採血・採尿などをして身体の状態を調べます。

血液検査の項目は標準的なものから、極めて特殊なものまで数千種以上あります。

専門の臨床検査技師が検査を実施しています。院内検査室のメリットは、早く答えが出ることです。

院内検査室で行う一般的な検査であれば1時間程度で結果が出ます。特殊な検査項目の場合、病院外の検査機関にて測定してもらいます。



血液検査で何が分かる??

- ・貧血、肝機能、肝炎ウイルス、脾機能、腎機能、糖代謝、脂質代謝、尿酸代謝など、体の状態がわかります。
- ・腫瘍マーカー…種々の悪性腫瘍の存在で出現する蛋白や抗原を調べます
- ・便検査(便潜血)…大腸、直腸、肛門などの消化管からの出血があると陽性になります。
腸ポリープ、痔からの出血や裂肛でも反応します。陽性反応もしくは自覚症状のある場合は精密検査をお勧めします。



生理機能検査はどんなことをしている??

- ・心電図検査…ベッドに寝た状態で、胸と手足に電極をつけ記録します。不整脈や、狭心症・心筋梗塞といった虚血性心疾患や心臓の肥大などが分かります。
- ・呼吸機能検査…肺の換気能力を調べる検査です。マウスピースを口にくわえ、鼻にクリップをして、口呼吸で検査を行います。
- ・超音波検査…超音波とは、人間の耳では聞くことを目的としない、2万ヘルツ以上の高い周波数の音です。超音波には、一定方向に直進し、その跳ね返り方が当たるものの性質によって異なることを利用して、画像として映し出す検査です。当院では心臓、下肢静脈を主に検査しています。
- ・聴力検査…オーディオメーターで中・高音域(1000・4000Hz)の聴力を検査します。
加齢、環境騒音、耳疾患や種々の疾患により聴力障害を生じます。
- ・血圧脈波検査…両手、両足首の血圧を同時に測ることによって、動脈硬化の状態を把握します。心臓から押し出された血液が手や足に届く速度(脈波伝播速度: PWV)を測定することによって、血管の硬さを調べることができます。





暑さに負けない夏



7月に入り、どんどん気温も上がり、本格的な夏が到来しようとしています。

夏に入り、『なんだか疲れが取れない。』『身体がだるい。』『寝ても疲れがとれない。』などはありませんか？

この3つのうち、一つでも当てはまったらそれは



です。



夏バテの要因は？

- ① 暑さにより、消化機能が低下する。
- ② 汗を多量にかき脱水をおこす。
- ③ 水分を摂りすぎて体内のミネラルバランスが悪くなる。
- ④ 湿度が高くなり、体内に熱がこもることで体温調節ができなくなる。

などがあります。



夏バテ予防のためには？

夏バテ予防に大切な栄養素は**ビタミンB1**です。

ビタミンB1はご飯やパンや砂糖などの糖質をエネルギーに変える働きがあります。ビタミンB1が不足すると糖質をエネルギーに変えることが出来ず、疲れがたまり、食欲がわかなくなったりします。暑い時期はたくさんのエネルギーを必要とするため、プラスしてビタミンB1の必要量も増加するので、食事から多く取り入れましょう♪



ビタミンB1を多く含む食材は？



豚肉やうなぎ、枝豆、ピーナッツ、胚芽米などに多く含まれています。

暑い日が続くと炭酸飲料やアイスクリームなどを食べたくなりますが、大量の糖分が含まれ、たくさんのビタミンB1を使うことになるので、食べすぎには注意が必要です!!

夏バテ予防レシピ ～ ポークチャップ ～



【材料：2人分】

豚ロース肉：2枚 玉ねぎ1/2個

塩こしょう：少々 サラダ油：小さじ1

A（ケチャップ：大さじ3 ウスターソース：小さじ2 水：カップ1/4）

【作り方】

- ① 豚肉は包丁の背などで軽くたたき、塩・こしょうをしておき、玉ねぎは薄切りにする。
- ② フライパンに油を熱し、玉ねぎを炒め端に寄せ、豚肉の両面がきつね色になるまで1～2分焼く。
- ③ 豚肉が焼けたら合わせておいたAを加えて3分ほど煮からめる。





医療法人 啓信会

中之島いわき病院

～第8回病院主催・市民健康講座ご報告～

2016年7月2日（土）グランキューブ大阪（大阪国際会議場）
で第8回病院主催・市民健康講座を開催しました。

今回の健康講座では、過去最多のお申込みを頂きました！

3日ほど前まで激しい雨が続き、お天気が不安定だった為、参加者様に雨の中ご来場頂くのかと心配しておりました・・・が、しかし！！
思いが届いたのでしょうか、当日のお天気は太陽がサンサン、じりじりと気温は上昇！最高気温34.2度と非常に良いお天気でした。
そして、こんなとてもとても暑い日にたくさんの方にご来場頂きました。

今回の健康講座は2部構成で行いました。第1部では、岩城院長の講演「ひざ・股関節の痛みと治療について」、第2部は、初の試みである患者様の体験談「いつまでも元気に“歩く”為に」、理学療法士による「ひざ・股関節の痛みとのつきあい方」といった盛りだくさんの内容でした。



岩城院長の講演では、ひざと股関節の仕組みやその痛みと原因について詳しく解説されました。保存的治療では、運動療法や体重のコントロール、杖などの歩行補助具や足底板の使用、そして患者様への教育（指導）、ヒアルロン酸関節内注射を挙げられました。サプリメントのお話では、皆様が高い関心を持たれていました。

手術的治療では、ひざ・股関節に対する手術の方法について説明されました。人工関節置換術や内視鏡（関節鏡）による手術、骨切り術など適応年齢や術後の生活についてもお話されました。皆様、真剣な眼差しでメモを取りながら受講されていました。

森本理学療法士によるリハビリの講演では、膝関節と股関節は密接な関係であることや筋肉トレーニングの重要性、運動の紹介をしました。

「膝の痛みがあるけど、股関節も関わっているのは知らなかった！」「筋肉トレーニングは、ひざ・股関節の両方にいいんや！」など、様々な声を聞くことができました。

講演を聞きながら、実際に足を上げ下げしている方が多数いらっしゃいました。

手術後のリハビリについても、患者様の映像を交えて解説されました。手術前の歩行と術後1日目、1週間のリハビリの経過や術後2週間の歩行をご覧いただき、参加者様より「すごい！」「スムーズに歩けてる！」と驚きの声があがっていました。





体験談では、当院で実際に手術を受けられた2名の患者様にご協力いただきました。

医師や理学療法士等による講演だけでなく、実際に人工関節置換術を受けられた方の体験談をお聞き頂くことで、手術に対してより身近に感じて頂けるのではないかと思います企画致しました。

人工関節の手術は、受けたら終わりではありません。
手術を受けるまでのこと、手術後の痛みやリハビリのこと、実際に病院で過ごされた日々のお話をして頂きました。

当初、お二方とも手術適応ではありましたが、当院でのスタートは外来でのリハビリテーションでした。関節の動きが悪くなったり、動く範囲が狭くなった場合に、その動きの改善や動きの範囲を広くするための稼働域訓練や弱くなっている筋肉や歩行のための筋力訓練など痛みと向き合いながら続けられていました。



リハビリに励み、生活の質は向上していましたが、他の関節への負担や痛みの少ない状態がコントロール出来なくなり、年齢的なことも考えられ手術を受けられる決意をされたのです。

いつか手術を受ける日がくるかもしれないその日の為に備え、皆様真摯にお話を聞いておられました。

手術を受けられた方の、“現在”を実際に見て頂くことができ、私達 にとっても良い機会となりました。

今回、パソコン機器のトラブルがあり映像をご覧いただくことが出来ない場面がありました。
皆様には大変ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。
以後このようなことがないよう努めてまいります。次回以降の健康講座もよろしくお願い申し上げます。



第10回 中之島いわき病院主催 市民健康講座 平成29年1月開催予定



詳細が決定しましたら、院内または
当院ホームページにて告知致します。
皆様のご参加をお待ちしております。

診察時間が午後は7時まで(受付) 受診できます！

● 診察時間・外来担当医表 ●

外来の受付時間は午前診察12時30分、午後診察は19時にて終了いたします
※ご予約優先です。

<整形外科>

受付時間	月	火	水	木	金	土
9時～ 12時半	岩城 (11時迄) 金城 森本	岩城 (9時半～) 中田	榎 森本	岩城 榎 中山	金城 行方	担当医
16時～ 19時	森本	岩城	岩城 川村 (17時～)	榎	金城	担当医

<内科>

受付時間	月	火	水	木	金	土
9時～ 12時半	一丸	一丸	一丸	一丸	春里	休診

禁煙外来をご希望の方は、一丸先生の診察日にお越しください。

●交通アクセス



●電車でお越しの方

京阪中之島線中之島駅より徒歩3分
JR東西線新福島駅より徒歩8分



●お車でお越しの方

阪神高速神戸線中之島西ICより
土佐堀橋北詰交差点を北へ

★外来患者様：隣接の駐車場
割引サービスあり



●バスでお越しの方

大阪市営バス 大阪駅前
鶴町4丁目 [55] 方面



診療科：整形外科・内科（呼吸器内科・消化器内科（内視鏡））
麻酔科・リハビリテーション科・放射線科・リウマチ科

〒553-0003 大阪市福島区福島3-2-9

電話：06-6458-3151 FAX：06-6458-3155

mail：info@nih.or.jp HP:http://nih.or.jp



医療法人 啓信会

中之島いわき病院

